



1_フェイスペイントのコーナーで頬にイラストを描いてもらった子どもたち 2_ショベルカーの操縦体験。真剣な表情でレバーを握る 3_移動動物園ではウサギやモルモットと触れ合った

「やってみたい！」が盛りだくさん 子どもたちのワクワク広がる一日

「第25回子どもフェスティバル」(同実行委員会主催)が5月16日、共生館で開かれました。子どもたちの健全育成を目的に毎年実施されているイベントで、今回は親子連れなど約1,200人が来場しました。

会場では20団体が、子どもたちに向けたさまざまなブースを出展。館内ではヨーヨー釣りやスーパーボールすくい、環境について楽しく学べる絵合わせゲームなどのコーナーが開かれました。スノードームやプラ板のものづくり体験もあり、参加者は講師に教わりながら夢中になって作業に取り組んでいました。屋外ではパトカーやはしご車への試乗、自衛隊の装備展示、野村高校による移動動物園など、普段はなかなか体験できないコーナーが充実。内子町商工会などによる飲食物の販売もあり、子どもたちは広い会場内を巡りながら思い思いに楽しんでいました。

イベントの締めくくりには、恒例のお楽しみ抽選会を開催。当選者の名前が読み上げられるたびに大きな歓声が上がリ、最後までにぎわいを見せていました。



珍しい車の前で足を止め、見入る来場者も

愛好家こだわりの名車がずらり 城の台公園でカーミーティング

「小田ノスタルジックカー & スポーツカーミーティング」が5月17日、城の台公園で開かれました。ランボルギーニなど約140台の名車が並んだ会場では、オーナー同士が愛車を囲んで交流する姿も。またマルシェも同時開催され、車に詳しくない人も楽しめる催しとなりました。主催した松下博幸さんは「約1,500人が小田に来てくれた。地域の活気にもつながればうれしい」と話しました。



ますがた 枺形を歩く内藤さん。撮影には町民エキストラも参加

内子の町並みが旅情サスペンスの舞台に 『旅人検視官 道場修作』が初の映画化

『劇場版 旅人検視官 道場修作』の撮影が町内で行われました。内藤剛志さん演じる元検視官・道場は、亡き妻が残した雑記帳を手にも全国を旅してきました。本作では内子の町並みや松山市などを巡る途中で事件に遭遇。やがて自身が20年前に関わった未解決事件へとつながり、過去と現在、登場人物たちの記憶と思いが交錯していきます。作品は6月12日から全国公開されます。



初夏の大空、大凧乱舞—— 世代を超え受け継ぐ「いかざき大凧合戦」

「いかざき大凧合戦」(同実行委員会主催)が5月5日、豊秋河原で開かれ、多くの来場者でにぎわいました。

今年の百畳凧に描かれたのは「幸」の文字。約1万8,000人の観客が見守る中、糸を引かれた凧は力強く空を舞い、会場から大きな歓声が上がりました。

午後1時に始まった合戦には自治会などから130チームが参加。糸に取り付けた刃物「ガガリ」を互いに絡ませ、激しい切り合いを展開します。川の中に入りながら懸命に糸を引く人の姿や、相手凧の糸が切れると喜び合う場面も。「もっと引け、引け」など仲間を鼓舞する声が飛び交い、会場は熱気に包まれていました。

他にも、出世凧揚げ、還暦祝い凧・開運祈願凧揚げ、五十崎中生徒らの創作凧の審査会、中学生や保存会などによる凧踊りの披露、少年剣道大会も実施。子どもから大人まで、地域の伝統文化を楽しんでいました。



1,2_中学生や保護者、地域住民も凧踊りを披露 3_内子高校郷土芸能部の太鼓演奏で合戦開始 4_注目の中、空を舞う百畳凧 5,6_出世凧を揚げて子どもたちの健やかな成長を願う 7,8_懸命に凧糸を引く参加者たち

県内自治体の適正な監査業務に貢献 赤穂英一さんに全国監査委員協議会から感謝状

愛媛県町村監査委員協議会の発展に貢献したとして、赤穂英一さんに全国監査委員協議会から感謝状が4月1日付けで贈呈されました。赤穂さんは県協議会の副会長を1年半、会長を2年半歴任。内子町代表監査委員も2期8年間務めました。赤穂さんは「県下の情報を参考にしてもらったため、情報交換会を新たに開催した。県全体の監査業務の充実・強化に貢献できたのでは」と述べました。



感謝状を受け取った赤穂さん